

Lending Technologies and Soft Information Management: Evidence from Japanese Regional Banks

神戸大学大学院 中岡 孝剛

神戸大学 與三野 禎倫

本稿は、中小企業整備基盤機構が 2008 年 5 月に実施した『金融機関における非財務情報の活用実態および今後の有効活用についての調査』のアンケートデータを利用して、わが国の地域金融機関による貸出技術の選択問題を検証する。また、リレーションシップ貸出で活用されるソフトな情報の収集・管理方法が、融資の意思決定にどのような影響を与えるのかを検証する。主要な結果として、1) 規模が大きい銀行ほど、財務情報に依存した融資（トランザクション貸出）を選択しているが、ソフト情報の利用に劣位性が存在しているわけではない、2) 中小企業向け融資額の平均サイズ（中小企業向け貸出額/中小企業向け貸出件数）が大きいほどソフト情報の活用度合いが高い、3) 標準化したソフト情報の収集方法（ヒアリングシート利用）や組織的な管理方法を選択している銀行ほど、融資の意思決定においてソフト情報を活用していない、ということが示された。

また、アクションプログラム施行前後でソフト情報の活用度合いが高まったかどうかを検証したところ、ソフト情報の活用度合いは変化しておらず、むしろキャッシュフローなどの財務情報の活用度合いが高まっていることが示された。

本稿で得られた結果は、わが国における地域金融機関の融資行動を把握する上で、有用な手掛かりになると考えられる。

JEL classification: G21; G33; L14; L25

Keywords: Relationship lending, main bank, soft information utilization, soft
Information management